

(前書き) 中学三年生の雄太郎が通う中学校は、今年度末に閉校することが決まっている。九月の学園祭では最後の合唱コンクールが学年対抗で行われることになっており、どの学年も意気込んでいた。今年の三年生は二年続けて最下位だったこともあり、指揮者の雄太郎を中心に今年こそ金賞を獲得しようと練習を始めた。

【中略】

男子が朗々と歌い上げ、女子も負けじと高い声を響かせる。しつかり歌いこんだ成果で、どちら声に力みがない。練習を始めた二か月前とは比較にならないほど調和のとれた合唱だった。つられて、指揮者の動きもなめらかになった。

①課題曲の『いのちの名前』を歌い終わったところで、雄太郎は「いける」と確信した。

【中略】

歌声にのって、雄太郎は一瞬体が宙に浮きあがるような感覚を覚えた。見えない翼が背中に見える。見えない。そして思った。「未来へのとびら」はきつとどこかにある。「あふれる希望」を歌うのは自分たちなのだと。

学校はなくなっても、ぼくたちの友情は変わらない。「いのちの名前」は、学校の名前ではない。ぼくたち一人ひとりの名前なのだ。

雄太郎は仲間の歌声に感動し、その調べに身をゆだねた。達成感は切磋琢磨の中からしか生まれないのだと思った。このひとときのために、みんな練習を重ねてよかった。ほんとうによかった。

指先にほのかな火がとまり、^②全身にあたたかいものが流れていった。涙がこぼれそうになった。(本田有明著「最後の卒業生―夕張に生きる中学三年生たち」による。一部省略がある。)

問一 傍線①の部分に「課題曲の『いのちの名前』を歌い終わったところで、雄太郎は『いける』と確信した」とあるが、この時、雄太郎は、何を感じ取り、どんな結果を確信したのか。二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。

〈解説〉

この問題の条件は次の三つです。

- ① 感じ取ったことは何なのか
- ② どんな結果を確信したのか
- ③ 字数指定↓二十五字以上、三十五字以内

書くべき内容が二つあることを確認しましょう。条件から答えとなる記述の形は「くを感じ取り、くと確信した。」と書くべきことがわかります。まず前書きの部分に注目すると、確信した結果は目標でもあった「金賞を獲得すること」だとわかります。では、何を感じ取って確信したのか本文中から探していきます。直前に「調和のとれた合唱だった」とあるので、感じ取ったことは「調和がとれていること」となります。これらを条件の字数でまとめればよいので

（解答例）「調和がとれていることを確信し、金賞を獲得できると確信した。」となります。

- ① 感じ取ったこと ↓ **調和がとれていること**
- ② 確信したこと ↓ **金賞を獲得できること**



「調和がとれていることを感じ取り、金賞を獲得できると確信した。」

問二 傍線②の部分「全身にあたたかいものが流れていった」から、雄太郎が達成感を得ると同時に、あることに思い至り感動している様子がうかがえる。この時、雄太郎が思い至ったことを、三十文字以上、四十文字以内で書きなさい。

〈解説〉

この問題の条件は二つです。

- ① 雄太郎が思い至ったこと
- ② 三十文字以上、四十文字以内

この文章の背景をとらえましょう。前書きを読むと、雄太郎の中学校は今年度末閉校することがわかります。また、本文の中に「学校はなくなっても、僕たちの友情は変わらない」とあるのでこの部分をまとめていきます。このままでは条件の字数に満たないので、僕たちとは具体的に誰なのかを本文中の表現を用いて説明しましょう。設問の中に注目すると「達成感を得ると同時に」とあるので、達成感をキーワードに本文中を探していくと「達成感は切磋琢磨の中でしか生まれな

いのだと思った。このひと時のために、みんなで練習を重ねてきてよかった。」とあります。僕たち〓切磋琢磨した仲間〓互いに励ましあった仲間と言い換えていきます。これを条件の字数でまとめていけばよいので

(解答例) 「学校はなくなっても互いに励ましあった仲間との友情は変わらないということ。」
となります。このように**文章中の表現を言い換えていくやり方**は記述を作るうえで重要なポイントなのできちんと押さえておきましょう。

学校はなくなっても、僕たちの友情は変わらない

↓ 切磋琢磨 〓 互いに励ましあった仲間



「学校はなくなっても互いに励ましあった仲間との友情は変わらないということ。」